

コンさる君の

## 今日も視界良好

vol.050

## ⑤「管理に費やすエネルギーを最小限に」 中小企業診断士 長尾康行

ここ1年半でインターン生2人を含めて5名の採用を行いました。事務所も手狭になったため広い事務所に移転し、売上規模も大きくなってきました。一見、良い事ばかりのようですが実際はそうではありません。人が増えると以前では考えなくてよいことが次から次へと発生し、その対処に時間を奪われることとなります。そして、その内容がどれも社内の制度や人そのものを管理する事項がほとんどで、外（お客様やマーケット）を向く機会が奪われていきます。具体的には業務上のミスが多くなったり、AさんとBさんのコミュニケーションがうまく取れていないなどです。どこの企業にも起こる話ですが・・・。

当社は幸いにして、まだ小規模な組織ですので今すぐに対処しなければならないような目立った問題というのではありませんが、複数人で仕事をする以上、日々の業務の中では個々にストレスを感じる場面があるのは当然のことです。しかし、私自身は誰かがミスや失敗をしても、あまりストレスを感じることはありません。ミスや失敗をしても、お客様に謝罪し、再発防止策を考えて社内に横展開してくれたらそれで良いです。ミスや失敗に対する考え方はここ2、3年で大きく変わったと思います。会社としてはITやデジタルの力で情報を集約し、管理項目を可能な限りシンプルかつ、ミスが発生しないような仕組みを整えることを大切にしています。一方で人間関係や感情的な事項についてはストレスを強く感じます。特に個人が醸し出す雰囲気や態度が、会社の目指す理想のカタチと離れているとストレスに感じます。

私の理想はITやデジタルの力を活用しながらも、人間の心の部分は所属する各自が「チームで仕事をする」という意識をもって助け合う心を大事にすることです。そうすれば良い雰囲気が社内に充満するでしょう。間接業務や人間関係もスムーズになり、皆が気持ちよく仕事をできるのではと思います。

## ⑥「基本姿勢である「守破離」 事務担当 松野あやか

私が仕事において大切にしていることがありますので少し紹介させていただきます。それは「守破離」という言葉で代表の長尾との業務の打ち合わせや上司の木戸と月に一度の面談・打ち合わせの際に学んだ言葉でした。本来は、武術・芸術・茶道・華道などの世界で、その道を知る修行の過程で重要な事を伝える教え・思想の言葉です。ビジネスでは以下のように考えられています。

守・・・上司・先輩を真似る。仕事の基本・基礎を『守る』つまり、学んだこと（基本・基礎）を実践する段階。  
破・・・独自に工夫する。仕事の基礎を少しずつ『破る』つまり、試行錯誤をしながら自分流のスタイルに挑戦段階。  
離・・・基本を踏まえたオリジナルに進化する。仕事の基礎を変革して『離れる』つまり、上司の元を学んだことより進化する段階。

中学・高校時代は弓道部に所属しており、この言葉を理解した上で、振り返ってみると弓道においても同様のことが言えると思いました。弓道の先生の弓の引き方・型を学び、何度も練習し、自分の握力や身長などによって弓の重さや大きさを変え、試行錯誤しながら練習に励みました。そして選抜に選ばれ、大会で成績を残すことができました。現在の私は、日々の業務や事業計画書の作成などにおいて、まずは学んだこと・指摘されたことを忠実に守り実践していく段階であり、今後もこの基本姿勢を大切にしていきます。

## ⑦「思い切ったリファイナスでの資金繰り改善」 中小企業診断士 木戸貴也

この約1年間は新型コロナ特別融資などの融資を受け、売上減少や損失計上の中でも資金繰りを行えた企業が多かったと感じています。また、実質無利子や新しい保証制度が創設されても融資限度が増えるわけではないので、返済を据置期間中の企業は追加融資を受けることが中々難しくなっている印象です。資金繰りが苦しい状態で新規融資が難しければ、資金の流出を早急に止めなければなりません。借入返済を見直す手法として、リスケジュール（条件変更）やリファイナス（借換）がありますが、出来る限りリファイナスを検討します。思い切って借入口数や取引金融機関を集約し、月々の返済を抑えることで十分に資金繰りを改善できるケースもあり、リファイナスで活用できる公的制度もあります。「資金繰り悪化＝リスケ」ではなく、思い切ったリファイナスも検討してみてください。

## ⑧「継続は力なり」インターン生 橋本大治

最近、自分が塾のアルバイトで担当している、ある生徒の学力が伸び始めたように感じます。その子は、もとより勉強が出来ないというわけではありませんでしたが、本人は周りの子と自身を比較し、落ち込むことが多い子でした。私は宿題を出す量が多いらしく、よく生徒から文句を言われるため、事情によっては減らすことがあるのですが、この子も文句は言うものの、「少し減らそうか？」と尋ねると必ず「自分には必要なのでやってきます。」と答えます。この調子で自分が担当を任されてから一年間、この子はひたむきに勉強を頑張ってきました。その結果、この前、復習プリントを解かせてみた際に、他の子より非常によくできていました。塾のバイトは四年目になりますが、成績が上がるかどうかの分かれ目として、頑張っても結果が出にくい初めの時期を乗り越えられるかどうかという点が挙げられます。まさに継続は力なりです。私も生徒達に恥じぬよう、コツコツと努力しようと改めて思いました。

## ⑨「IT化と人間力」 榎本啓嗣（ならもと けいじ）

最近、事業者様を訪問していると若手の人材教育を行うより、生産ラインの無人化や簡易的な操作で誰にでも作業を行える機械設備やシステムなどの設備投資を行うといった事業者様が多くなってきているように感じます。大きな理由としては、日本の高齢化社会による働き手の減少や、人員によるミスやコストの削減などが挙げられています。しかし、市場全体の設備の高精度化は、将来的に他社との差別化を図ることが困難になり、人員の経験値や知識もなくなってしまう可能性があると考えられます。最近ロボットができる仕事が増えたという耳にしますが、これはロボットにできる仕事が増えたのではなく、人間ができることが少なくなってきたのではないのでしょうか。今後、超IT化社会が訪れた際にはコミュニケーションや相手の対場になって考える能力といった人間として当たり前で能力でもあるホスピタリティな面がどのような業種であれ、重要になってくるのではないのでしょうか。

## ⑩「1か月を振り返り」インターン生 秋定皇輝（あきさだ こうき）

インターンとして受け入れていただいてから1ヶ月以上が経過しました。この1ヶ月を振り返ってみると、右も左も分からず、手取り足取りご教授頂いていたものが、今何を行っているのかということが少しずつ分かってきました。そして何より、この1ヶ月を通じて感じた事は質問をする重要性です。何事も一度は自分で考えますが、それでも分からない場合は早急に質問をすることが大事だと感じました。疑問点はどんどん質問して、正しい方法を実践する方が圧倒的に効率的になる、聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥という諺の通りだと思いました。今はなんでも聞けるという特権を持っていると思うので、今のうちに質問して、多くのことを身に付けていきたいと思っています。



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

〒542-0081 大阪市中央区南船場4-12-8 関西心斎橋ビル8階

TEL：0120-34-8776

FAX：06-7635-8214

MAIL：info@flagship-keiei.co.jp

URL：www.flagship-keiei.co.jp



株式会社フラッグシップ経営 Facebook ページ

♡いいね! お待ちしております。



株式会社フラッグシップ経営 Twitter

@flagship\_keiei にて随時情報発信中!

